

2019-20 年度 臨時版 2 号 2020 年 5 月 5 日

例会場：「カンティナ」逗子市新宿 1-3-15 TEL：046-870-6440

事務局：逗子市桜山 6-3-29 TEL & FAX：046-873-0226

例会日：第 1・2・4 木曜日 12:30 第 3 木曜日 18:30 第 5 木曜日 18:00

会長：大野宏一 幹事：横山 健

E-mail：zushirc@sage.ocn.ne.jp

Website: <http://www.zushi-rc.com/>

〈会長の独り言〉 大野 宏一会長



04/17 これまで自作の電子化をしてこなかった、作家、東野圭吾さんの代表作 7 作品が電子書籍化となり「外に出たい若者達よ、もうしばらくご辛抱を！たまには読書でもいかがですか。新しい世界が開けるかもしれません。

保証はできません」と当人よりコメントがありました。ということで今回は、秋の夜長、ではなく、新型コロナウイルスによる自粛による春の夜長、を利用しての読書の旅をオススメしたいと思います。

近頃では、電子書籍を利用すれば、Amazon の Kindle ストアなどで、書店に足を運ばなくても自宅の PC 等デバイスより書籍を購入、アプリでスマートフォンやタブレットで即時に閲覧可能という読書スタイルが定着してきたため、ネットサーフィンならず読書サーフィンも可能となりました。また、電子書籍は通常書籍よりもたいてい価格が割り引いて販売されていること、著作権が消滅した作品等（青空文庫等）は無料でダウンロード可能なことで、コスト面でも良好なのです。最近の私の読書 & ネットサーフィンをご参考までに…

新型コロナウイルス拡大の影響で 1947 年出版のアルベール・カミュの『ペスト』（新潮社）が 2 月以降 15 万部増刷となっております。

そんなとき、04/13 毎日新聞東京夕刊の記事に、【『コロナ時代の僕ら』出版へ イタリア人作家ジョルダノさん いま考えること忘れまい 国ではなく全人類の問題】を発見しました。即 Amazon Kindle で予約、書籍販売日（04/25）の一日前にダウンロード可となりましたので、読んでみました。

作者パウロ・ジョルダノ（37 歳）2008 年『素数達の孤独』（早川書店）でデビュー 120 万部発行でイタリア最高の文学賞ストレーガ賞を受賞。『コロナ時代の僕ら』（早川書店）は、新型コロナウイルスイタリア外出制限下でつづいた 27 編のエッセイ集。作者ジョルダノさんによる、今回素早く出版した理由として「感染が広がり混乱した人々を鎮めたかったのが一つ。もう一つは、疫病と地球環境の関係など僕が考えたことを多くの人に伝え、今後

も議論を続けてほしいと思ったからです」とありました。

作者得意の数学で新型コロナウイルスを分析しエッセイをつづっていく技術は必見かと思います。著者あとがきが秀逸でした。

『コロナ時代の僕ら』内の一文より、”僕らが心配しなくてはいけない共同体とは、自分の暮らしている地区でもなければ町でもない。さらには州でもなければイタリアでもなく、ヨーロッパですらない。感染症流行時の共同体と言えば、それは人類全体のことだ。”

中国武漢発生の新型コロナウイルスは、ヨーロッパでもやの大流行。WHO よりパンデミック宣言となりました。アジアとは違う濃厚接触的な風習（ハグや握手等）が問題視されました。世界は異なる風習の中で動いているのでした。

そこで、和辻哲郎『風土 - 人間学的考察』（岩波文庫）を思い出し、Kindle 版にて再読いたしました。

序言 ”人間存在の構造契機としての風土性を明らかにすること”からはじまり、風土を三つの類型『モンスーン』『沙漠』『牧場』にわけて、インド・アラビア・アフリカ・ヨーロッパと小気味よく比較考察していきます。『モンスーン』風土に含まれる『シナ（中国）』『日本』の特殊性も別途解説されています。新型コロナウイルスが世界中で蔓延する状況中での読後感はやはり違ったものがありました。

また、新型コロナウイルスによる世界経済への衝撃に関する観点から、今後の国家・社会・経済を予測する書籍の中で、ヨーロッパ最高の知性といわれたジャック・アタリ『21 世紀の歴史～未来の人類から見た世界』（作品社）は以前から読みたかったので、Amazon 中古本にて購入（未 Kindle 化）しました。

ジャック・アタリはこの本で、世界は市場原理主義となり、グローバル多国籍企業（超帝国）が中心となり、世界規模での階級社会が出現。すべてのひとがノマド化（①ハイパーノマド②バーチャルノマド③下層ノマド）されてしまう未来図を描いております。

まったく、コロナ後の未来を考えさせられる、不安と希望に満ちた書でありました。

※ ノマドとは、1980 年出版のジル・ドゥルーズ／フェリックス・ガタリ『千のプラトー』（河出文庫）内で、従

来の、定住的直線的な国家・社会のピラミッド構造やツリー構造に対して、国家・社会を越えて、インターネットのように中心もなければ終わりもなく複雑に絡み合っただイナミックに動くような構造を、【リゾーム（地下茎）】と定義し、そのリゾーム構造を自由に渡り歩くことができる人間を nomad（ノマド：遊牧民・放浪者）と呼びました。

変わって疫病災害・ノマドのキーワードから、鴨長明『方丈記』が、頭に浮かび、Amazonの青空文庫版（無料）をダウンロードしました。

“行く川のながれは絶えずして、しかも本の水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて久しくとどまることなし。世の中にある人とすみかと、またかくの如し。……” とありまして、『方丈記』は、この「すみか」いわゆる住環境についての随筆であるともいえます。「方丈」とは 4.5 畳正方形の部屋（小屋）のことで、鴨長明は、これを分解組み立て式に仕立て、「すみか」を移動させて、当時の社会から離脱して閑居生活を行いました。ある意味、鴨長明は日本人初？のノマドであったともいえます。晩年には鎌倉まで源実朝に会いに行ったりした行動派でした。

方丈記を読書中に【日本で起きた災害 2010 年代】でインターネット検索しました。

- 2010 年元日豪雪・2010 年チリ地震津波（2010 年）
- 3.11 東日本大震災・長野県北部地震・福島県浜通り地震・平成 23 年台風 12 号（2011 年）
- 関東竜巻災害（2012 年）
- 2013 年猛暑・平成 25 年台風 26 号（2013 年）
- 平成 26 年豪雪・2014 年広島市土砂災害・2014 年御嶽山噴火（2014 年）
- 平成 28 年熊本地震・熊本県阿蘇地震・大分県中部地震・平成 28 年台風 7・9・10・11 号（2016 年）
- 平成 29 年 7 月九州北部豪雨・大阪北部地震（2017 年）
- 平成 30 年 7 月豪雨・2018 年猛暑・平成 30 年台風 21 号・平成 30 年北海道胆振東部地震（2018 年）
- 令和元年房総半島台風・令和元年東日本台風（2019 年）

更に、2002 年ミュンヘン再保険会社の年次報告書「自然災害 2002」、というものを見つけました。

①地震リスク②台風リスク③洪水リスク④土砂災害リスク⑤火山災害リスク⑥干ばつリスク を対象にした、世界大都市の自然災害リスク指標で、東京・横浜はリスク指数 710.0 で大差の 1 位（2 位はサンフランシスコでリスク指数 167.0）となっていました。

他のリスク指標のツールとして、津波リスク・原発リスク・国家債務リスク・国家破綻リスク・テロ政治的暴力リスク・核リスク・生活習慣病リスク・年金リスク等がありました。日本は多くのリスクを抱える、リスク大国であるということがわかりました。

『方丈記』では、鴨長明 20 歳代当時の災害の状況が書かれています。

- 安元の大火（1177 年）※都の火災
- 治承の竜巻（1180 年）
- 養和の飢饉（1181～1182 年）※干ばつ・台風・洪水

→ 翌年疫病発生・京都市中の死者 4 万 2300 人
元暦の地震（1185 年）※南海トラフ巨大地震

上記【日本で起きた災害 2010 年代】 + 現在の新型コロナウイルス。と比較すると多く類似するところがあるように思えます。この観点でも『方丈記』を読み返すと、また新鮮かもしれません。

そして、和辻哲郎『風土』に戻って、日本の特徴として、“豊富な湿気が人間に食物を恵むとともに、同時に暴風や洪水として人間を脅かすというモンスーンの風土の、従って人間の受容的・忍従的な存在の仕方の二重性格の上に、ここにはさらに熱帯的・寒帯的・季節的・突発的というごとき特殊な二重性格が加わってくるのである” “そして” “日本の人間は、自然を征服しようともせずまた自然に敵対しようともしなかったのかかわらず、なお戦闘的・反抗的な気分において、持久力ならぬあきらめに達したのである。” という、特殊性を持つ。という部分を再度読み直しました。

その後、クーリエ・ジャポンの WEB 記事（04/22）スイス人哲学者アラン・ポトンが提言『不確実な「コロナ時代」を生き抜くには、徹底的に”悲観的”であれ』という記事を見つけました。

”コロナ時代に必要なのは、ユーモア、愛、友情です。” “常に最悪な事態を想定すれば、「コロナ不安」から抜け出せる” とありました。

本来、自然災害等リスクが高い日本に住む国民は、最悪の事態を想定できる立場に近い人間なのでしょうか。想定外といえる範囲は、実際狭い範囲なのでは、ないのでしょうか。

ここに我々の今後の活動のヒントがあるように思いました。

”今までとは違った思考をしてみるための空間を確保しなくてはいけない。三〇日前であったならば、そのあまりの素朴さに僕らも苦笑していたであろう、壮大な問いの数々を今、あえてするために。たとえばこんな問いだ。すべてが終わった時、本当に僕たちは以前とまったく同じ世界を再現したいのだろうか。”（『コロナ時代の僕ら』著者あとがきより抜粋）

新型コロナウイルスによる自粛による春の夜長による読書。

冒頭のアルベール・カミュは、シンプルな喜びに注力することが大切だと説きました。そのシンプルな喜びには文学が含まれるようです。

「……たまには読書でもいかがですか。新しい世界が開けるかもしれませんが、保証はできませんが」



【青少年交換留学生の報告】

松田壽之カウンセラー

第1章—ハンガリーからの留学生—

新型コロナウイルスの感染が世界へと蔓延しております中で、3月16日にRIJYEMが派遣学生に対する基本方針、「派遣生徒を早急に帰国させる」事がアナウンスされました。これを受けまして、2780地区でも日本より派遣している9名の学生、受入れております9名の学生を早急に帰国させざるを得ないと苦渋の判断に至りました。

当クラブも地区の判断に従い、インバウンドのサボ・カタ、アウトバウンドの高橋ひなのさんに母国に帰国をして頂きました。サボ・カタ 3月20日成田発、高橋ひなの 3月20日ハンガリー発で帰国。2名共、無事に帰国されました。

さて、サボ・カタの約7ヶ月の日本での生活をご報告いたします。カタは2019年8月21日に来日。最初のホストファミリーは今年度、娘をハンガリーに派遣しているご家族、高橋氏家から始まりました。学校は関東学院六浦。その後、当クラブ会員の山科氏、臼井氏、事務局の松田氏の家の順番で親善大使として日本で暮らしておりました。

松田氏の次に最後のホストファミリーの徳永氏の家で過ごす予定でしたが、コロナの影響で急遽帰国する事になってしまい予定より早く帰国する事になってしまいました。

カタは内気な性格で、人とのコミュニケーションが苦手なタイプ、中々、学校にも馴染めず日本語の上達も他の交換学生より遅れておりました。受入れて頂いた家庭でカタが少しでも成長してもらえよう試行錯誤して頂き、少しずつ改善していく姿が感じられる矢先、コロナの影響で緊急帰国となり、とても残念な気持ちです。

受入れて頂きましたホストファミリーは大変ご苦労があったと思います。ホストファミリーの皆様方は本当に感謝を申し上げます。

第2章—空港物語—

ここで緊急帰国での対応についてご報告いたします。緊急帰国の決定に従い、21日発、エミレーツ航空でハンガリー行きドバイ経由を購入いたしました。

がっ... 20日朝に飛行機の欠航との連絡。焦った私達（大野会長・石田会員・松田事務局）は一刻の猶予も許さない状況を感じ、急遽、20日発ロシア経由ハンガリー行きのチケットを手配。慌ててカタにパッキングをしてもらい空港へ。ところが今度は「ロシア人しか搭乗できない！」と...。血の気がひきました。さあ、どうすればいいのか?? このままでは彼女が帰れない。カタ、松田さんも不安。その場で情報を確認したくても、各航空会社は休日の為、電話は繋がらない。空港にいる人では解からないとの回答。ハンガリー大使館に連絡をしたくても13日にコロナの影響で休館にしているし！（先に大使、職員が逃げるって考えられない！ビックリです）

成田空港第1ターミナル、昼過ぎ。さて、どうしたものか？携帯でハンガリー行きのチケットを検索。20日22時20分発カタール航空を発見！！即購入。チケット詳細を見るとドバイ経由！エミレーツは飛ばないのにカタールは飛ぶ？よく解らなくなってきた。本当に飛ぶのか？不安の波が押し寄せます。カタール航空も休日の為、確認ができない。神に祈るしかないです。カタール航空は第2ターミナル発。さっさと移動して22時20分まで待機。時間はまだまだあります。

朝から誰一人食事をしていなかったのが、空港でその日の最初のごはん、カタにとっては日本での最後のごはん。カタのリクエストのタコ焼きを食べ、空港でショッピング。私の携帯からラインの通知が！（まだ何かあるの～？もう勘弁して）

横山幹事からでした。「今、空港に向かっています」嬉しい一報です。幹事が来てくれると心強いです。その時、カタは空港の案内をチェックしております。「飛行機は今のところ飛びそうです。安心。」

「あれ？時間が早くなった。22時になったよう」（早くなるって聞いたことがない私はビックリ。不安の波がまた襲ってきます）そんなこんなで時間がたち。搭乗時間もうすぐです。そろそろ、ゲートをくぐらないと。飛行機も出発に問題がなさそう。安心、安心。ところで... 幹事は???

飛行機が早くなってしまった事で幹事は間に合わないかも？（別の不安の波が！）幹事を待ちたい気持ちはあるけど、カタはゲートに入らないといけない時間に！もう待てない！（幹事、空港まで向かってくれたのにすみません。もう時間が、と心で叫ぶ）

カタとの最後の挨拶。カタはゲートに向かったの荷物・ボディチェックへ。見守る私、松田さん。無事、荷物・ボディチェックが終わり、カタは荷物を掲げて搭乗口へ向かおうとしたその時！

うんっ！向こうから走ってくる人が---！！！！横山幹事だー。咄嗟に「カター！！」と叫ぶ私。カタが気付く。**横山幹事登場！！**

幹事がもっていた花をゲートで働いている人をお願いをしてカタの手元へ！！ゲート越してしたが横山幹事もカタとのお別れ。（ドラマみたい！！感動的です）その後、幹事、松田さんと飛行機が無事飛ぶのを確認し帰宅。（本当によかった）長い一日でした。

その後、カタより無事に家についたと連絡があり、肩（カタ）の荷が落ちました（笑）



【募集】休会中も会報をできるだけ発行できたらと考えております。投稿記事を募集致します。写真やメッセージ、何でも結構です。事務局までメール又はFAXにてご連絡下さい。